

# 緑の中で知的興奮が 得られる場づくりが目標です。

ヨーロッパでも新田園主義というのが台頭してきています。つまり大都会に住むのもなく、全く新しい第三のライフスタイルというのが、これからの居住の流れになるだろうと思うんですね。テクノポリスも力を入れていますが、しかし工業が先にあるのではなく、農業や緑化を尊重した上ではじめて工業があるというのが基本的な考え方なんです。ですから都市



圏を考えるにあたって、単に人口が増えることを発展とは

思いません。緑の森の中で知的興奮が得られる場づくりが目標です。すべての都市が都市機能を完結させるというのは欲の深い話なんで、ある機能は菊池が持つ、ある機能は人吉が持つ、そういう効率のいいネットワークこそ必要な時代です。どこのまちにも文化会館をつくれ、県立公園をつくれといった発想ではなく、それぞれのまちが特色ある施設をもって全体を補充しあえばいいんです。ドイツなんか正にそうなっています。

(知事のごとき 雑誌対談より)

# 人間の思想を培うための 木もあります。

皆さん、今日はどうやってこちらへおいでになりましたか。それぞれの方角からいらつしやったと思えますけれども、私は熊本市内の九品寺に住んでおりますから、そこからこちらへ伺いますと、西側に楠の並木がございます。これが、今は大変きれいな並木で、緑がいっぱい繁っております。それを見ました時に、先ず私を感じましたのは、ああやっぱり「樹下の思想」というものはとても大事なのだ。つまり木の下に入はい

て、静かに目を閉じて瞑想する……これが樹下の思想でございます。そのために、熊本は県政によって「緑の三倍増」ということが言われているわけ、それは単に眺めがい

いとただけではない。健康にいい、というだけではない。その木というものの在りようには、人間の思想を培う、樹下の思想のための木もある、ということなんです。こういうふうにとらえていきますのが、やっぱり、教育の視点であろうと、私は思っております。

(安永路子県教育委員長 県政モニター全体会議講演より)



「第7回花しのぶコンサート」阿蘇の野に咲く花に捧げる「第7回はなしのぶコンサート」が、6月28日阿蘇郡高森町の南阿蘇国民休暇村内「野草園」で開かれました。

はなしのぶ九州特産で、しかも阿蘇と久住付近のみ見られる薄紫色の花。

## 似顔絵ロボット登場ノ早くも人気者。

このほど益城町のテクノポリスセンターに、人の顔をコンピュータで記憶し、三分間でそっくり書き上げる似顔絵ロボットが登場しました。このロボットはつくば科学博で好評だったものと同一機種。顔の細かい点まで克明に描くので、子供たちも大喜び。早くも同センターの人気ものになりました。

## 在宅老人介護事業スタート。

県は、最近問題になってきた痴呆性老人対策として、ボケ110番、介護連絡会議などを内容とした、在宅老人介護事業をこの七月からスタートさせました。このような、一貫した痴呆性老人の在宅ケアを支援した体制をとるのは、全国でも初めてのケース。本年度は、松橋町と五和町で実施、今後県内各市町村に広がっていきます。

## 「住民健康支援情報システム」始動ノ

七月六日、健康センターと市町村をオンラインで結ぶ「住民健康支援情報システム」の運用が開始しました。健康診断カルテを一元化するこの情報システム、全県下をネットワーク化したものとしては全国でも初めての試み。日本一のキメ細かいサービスを目指します。

## 入館者50万人突破 県立図書館

県立図書館では六月二十三日、オープン一年八か月で入館者が五十万人を突破しました。同館は、六十年十月、旧館のあった熊本市千葉城町から現在地に移転。コンピュータ検索システムや、図書に関する多彩なイベントなど、利用者のニーズにこたえてきました。これからも、水前寺江津湖公園内に立地している優れた環境を生かして、県民の憩いの場となるような図書館づくりを目指します。

